# 「新入生セミナーB（小学校サブコース）」の評価

英語教育講座・池野修

## １．授業の概要

「新入生セミナーB（小学校サブコース）」は，「小学校サブコースに関係する人（学生，教員），学ぶ内容，学修ロードマップを理解する。小学校におけるカリキュラムと各教科を学ぶ意義について理解を深め，今後の学修のための基礎知識を身につける。そして，自分が今後，教育活動にどのように関わっていくことができるか，自らの進路についての展望を試みる。」という内容をもつ授業科目である。

この授業には 3 つの目標があり，それは (1) 全小学校の教育課程と各教科の意義・内容について説明することができる，(2) 小学校サブコースの学びにあたり，新しい環境に慣れ，互いに協力し合える良好な人間関係を作ろうとすることができる，(3) 教職をはじめとする自らの進路について，自己の適性を探求し，大学生活への見通しを持つことができる，である。

15 回の授業は，小学校サブコース 1 年生全員（102 名）で一緒に受講する第 1 回～第 10 回までの授業と，3 つのクラス（各クラス 34 名）に分かれて実施するクラス別演習（第 11 回～第 15 回）に分けられる。

第 1 回目～第 10 回の授業は，初等教育における各教科への導入であり（第 1 回は小学校のカリキュラムと幼少中の連携，第 2 回～第 10 回は国語から外国語まで各教科・領域），旧カリキュラムにおける「初等教科概論」におおよそ該当する内容となっている。さらに，各回の授業の最後に，各教科・分野ごとに所属教員の簡単な紹介を行った。これは，3 年前期終了時に行う卒論指導教員決定に向けての，第 1 次情報提供としての意味合いも持っている。

第 11 回の授業では，(i) 第 1 回～第 10 回の授業の振り返りと (ii) 第 12 回・第 13 回のゲスト・ティーチャーによる講話に向けての準備を行った。(i) それまでの授業の振り返りについては，(A) 学期前半（小学校カリキュラムと幼少中の連携・国語・社会・算数・理科）／後半（家庭科・音楽・図化工作・体育・外国語）それぞれにおいて，特に重要だと思う内容・興味を持った内容（3 点程度），(B) 小学校教員として特に力を入れていきたい科目・領域，(C) 小学校教員になるにあたって課題となる科目・領域について，まず各自でミニ・レポートを作成し，(A)～(C)ごとにその内容についてグループで話し合いを行った。(ii) については，翌週からのゲスト・ティーチャーによる講話を見据えて，小学校教員の魅力や職務内容などについて事前話し合いを行い（後述のゲスト・ティーチャーに依頼した講話内容に対応している），尋ねたい質問を考えた。

第 12 回及び第 13 回の授業では，現在愛媛大学教職大学院で学ばれている，愛媛県の現職小学校教諭 3 名，附属小学校教諭 3 名をそれぞれ招聘し，講話を行っていただいた。これらのゲスト・ティーチャーには，(A) 小学校教員になった理由，(B) 小学校教員の魅力とやりがい，(C) 小学校教員の職務（授業以外にどのような仕事があるか，小学校教員の 1 日），(D) 現在及びこれからの小学校教育における重要課題，(E) 小学校教員になるために学生時代にしておくべきこと，の 5 点について話をしてもらうことを事前に依頼しておき，実際にこれらの点についての講話が行われた。

第 14 回の授業は，それぞれのクラスごとに，担任の裁量で内容を決定し実施した。例えば，私と木村先生（音楽教育講座）が担当するクラス 3 では，昨年度まで附属小学校教諭をつとめられていた楠先生に依頼して，小学校 2 年生を想定した音楽の模擬授業を実施していただいた。

第 15 回の授業では，第 12 回と第 13 回のゲスト・ティーチャーによる講話の振り返りを行い，学期を通しての学びのまとめを行なった。

## ２．授業の評価

### 2.1. 授業評価方法

授業の成果を評価するために，学期末に授業アンケートを実施した。質問内容は，(1) 授業目標の達成度の認識，(2) 特に意義があったと思うものとその理由，(3) 改善の提案（「あなたが授業担当者であれば，この授業のどの部分をどのように変えるか，なぜか」の 3 点である。なお，受講生 102 名の内 96 名から回答を得た。

### 2.2. 授業目標の達成度

本授業の目標の達成度について，「1」（＝全く達成できなかった）～「5」（＝十分に達成できた）

の 5 件法尺度で受講生に回答を求めた。調査結果を表 1 に示す。

表 1. 目標の達成度

| | | *M* (*SD*) |
|---|---|---|
| (1) | 小学校教育課程と各教科の意義・内容について説明できる | 3.56 (0.78) |
| (2) | 新しい環境に慣れ，良好な人間関係を作ろうとすることができる | 4.27 (0.73) |
| (3) | 自らの進路について，大学生活への見通しを持つことができる | 4.12 (0.54) |

受講生の認識が示す限りにおいて，授業目標(2)と目標(3)については，かなりの程度達成できたと言える。対照的に，目標(1)については，平均値が中央値 3 より少し高い程度である。入学直後の学期において，小学校各教科の概論を広く浅く学んだが，学期終了時点では，その学びに関する実感が十分に持てなかったため，相対的に評価が低くなったと考えられる。

### 2.3. 特に意義が大きいと判断された内容

この授業で特に意義が大きいと判断された内容として，最も関連回答数が多かったものは，第 12 回及び第 13 回に行った「現職小学校教諭による講話」である（回答数 54 名）。回答の中には次のようなものも含まれている。

- 現職の教員が考える教育課題や教職に関する様々な考えや意気込みなどを直接聞くことができ，深い学びになったと思います。
- 教員になるにあたって，楽しいことや良いことばかりではなく，しんどいことや苦しいこともあるということを直接聞くことができたから。また，生徒，実習生としては知ることが難しい具体的な 1 日の流れや仕事内容などを学ぶことができたのも貴重でした。
- 私が想像していた小学校先生の仕事とは違うことを授業を受けるたびに感じていたが，先生方が実際の仕事について話を聞いて，楽しいとどの先生も言われており，改めてこの仕事に就きたいと考えるようになったし，教師になるという自覚を持とうと思えるようになったから。

教職課程の初期の段階から，教職に対する動機や具体的な課題意識を高めることは重要であり，来年度以降も現職小学校教諭による講話は「新入生セミナーB」に含めるのが適切であると判断される。同時に，今年度そうしたように，講師の先生と講話内容について打ち合わせを行ったり，講話内容に関連する事柄について受講生に事前に話し合いをさせたりすることで，この講話がより意義のあるものになるはずである。

意義が大きいと判断された内容で 2 番目に関連回答数が多かったのは，クラス 3 の第 14 回目の授業において行った「音楽の模擬授業」であり（回答数 8 名），次のような回答に代表される。

- 小学校 2 年生の音楽の模擬授業は，普通であったら絶対にもう経験できない体験をさせていただいたので，19 歳になって改めて受けてみてわかったことがあった。

また，個々の教科に関する回答は必ずしも多い訳ではないが，小学校各教科の内容について総合的に学べたことに言及している受講生も多くいた。

### 2.4. 改善の提案

「あなたが授業担当者であれば，この授業のどの部分をどのように変えるか，なぜか」という質問を通して，授業改善についても受講生に意見を求めたところ，様々な回答が得られた。明らかに非現実と思われるもの（例えば，全教科の模擬授業を受ける）や適切でないと思われるもの（出席するだけで単位を出す）なども散見されたが，全体的には，座学（教師の話を聞く）ではなく，活動や実践を増やすという提案が多かった。他にも，例えば次のような回答が見られた。

- レポート課題などが統一されていなかったため，統一する。
- それぞれの教科の「学習指導要領」について，次回の授業の 5 分ほどを使って小テストを行う。
- 指導要領を詳しく説明する時間もいらないと考える。今やっても抜けていくだけだし，来年の初等○○でやれば良いと思うから。
- クラス単位での活動を増やし，1 つのものをまとめてそれをプレゼンし合いたい。

1 年生前学期の段階で，小学校各教科に関する情報を，どの程度具体的に，また包括的に提供するか（例えば学習指導要領をどの程度扱うか），教員による情報提供と学生主体の活動（作業，実験，実践，準備，発表など）のバランスをどうとるかなどは検討が必要とされる課題であろう。

## 3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業は，基本的には，「地域社会を核とした教育と研究のつながり」とは関連性を持たない。強いて言うのであれば，愛媛県下で活躍する現職小学校教員（合計 6 名）をゲスト・ティーチャーとして授業に招き，受講生に愛媛の小学校で働くことに対する具体的イメージを持ち，課題意識を高めてもらったことはそれに該当すると考えられる。